

第49回 全国トラックドライバー・コンテスト

学科競技

問題用紙

(競技時間：60分間)

部門 4トン・11トン・トレーラ・女性

氏名

注意事項

- ① 解答用紙に書かれている受験番号、氏名を確認すること。
受験番号は「『部門コード』 - 『ゼッケン番号 (2桁 (例：青森県 = 02))』」となる。

部門	部門コード
4トン部門	B
11トン部門	C
トレーラ部門	T
女性部門	W

例) トレーラ部門の青森県代表の選手の場合、受験番号は「T - 02」となる。

- ② 解答はすべて別紙の解答用紙 (マークシート方式) に記入すること。
- ③ 解答用紙 (マークシート方式) は、鉛筆を使用して必要な箇所にマークすること。なお、誤ってマークした場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ④ この問題用紙は、試験開始の合図があるまで開かないこと。
- ⑤ 問題用紙を一通り見て、印刷の不鮮明なところがあれば挙手をして係員に申し出ること。
- ⑥ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑦ 試験開始45分経過後より退室してよいが、解答用紙は机上に伏せて、他の選手の妨げにならないよう静かに退室すること。一度退室したら再度入室は認めない。
- ⑧ 時間については、試験終了10分前と5分前に終了を予告をする。
- ⑨ 落とした筆記用具の拾得等、試験時間中に何らかの問題が生じた場合は、挙手をして係員に申し出ること。

I 法規 (40 問)

【4 肢択一式問題】

問 1. 運転免許に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 第一種の運転免許には、大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許、大型特殊免許、小型特殊免許、大型二輪免許、普通二輪免許、原付免許、牽引免許がある。
- イ 普通免許を取得して1年を経過しなければ準中型免許は取得できない。
- ウ 準中型免許は20歳に満たない者は取得できない。
- エ 準中型免許を取得すれば、最大積載量5トン未満までのトラックを運転できる。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 2. 車両通行帯等に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 同一方向に3つ以上の車両通行帯があるときは、一番速度の速い車は最も右側の車両通行帯を走行する。
- イ 牽引自動車と大型貨物自動車は、高速自動車国道を走行するときは、標識等で通行区分が指定されている場合を除いて、一番左側の車両通行帯を走行する。
- ウ 一方通行路でも、道路の中央から右の部分にはみ出して走行してはならない。
- エ 車両通行帯のある道路で追越しをするときは、通行している車両通行帯の直近の右側の車両通行帯を通行する。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問3. 灯火に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 一般道路（幅員が5.5メートル以上の道路）において、夜間にやむを得ず道路に駐停車するときは、非常点滅表示灯などを点灯するほか、停止表示器材を置かなければならない。
2. 昼間でも、トンネルの中や濃霧などで視界が100メートル以下（高速自動車国道及び自動車専用道路では200メートル以下）のような暗い場所を走行するときは、灯火をつけなければならない。
3. 自動車は夜間に走行するときは、前照灯、車幅灯、尾灯、番号灯及び室内照明灯をつけなければならない。
4. 夜間に対向車とすれ違うときは、前照灯を減光するか照射方向を下向きとする。

問4. 横断歩道接近時の運転に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 前方の渋滞等により横断歩道の中で停止するおそれがある場合は、横断歩道に入ってはならない。
2. 横断歩道において、歩行者が横断しているかいないか明らかでない場合は、そのまま進むことができる。
3. 横断歩道を横断しようとする歩行者がいるときは、その手前で停止できるような速度を落として進行しなければならない。
4. 横断歩道の手前30メートル以内は追越しは禁止だが、追い抜きはできる。

【○×正誤式問題】

次の問5から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問5. 許可を受けて分割できない積載制限を超える貨物を輸送する場合は、昼間は0.3メートル平方の白い布、夜間は赤色の灯火又は反射器を見やすい場所につける必要がある。
- 問6. 踏切とその手前の側端から30メートル以内は追越しが禁止されている。
- 問7. 貨物自動車に積載できる貨物の長さの限度は、自動車の長さとその長さの十分の一の長さを加えたものである。
- 問8. 交差点直近の横断歩道の設けられていない場所で、歩行者が道路を横断しているときは、警笛を鳴らして注意を促しながら進行する。
- 問9. 右左折しようとするときは、その行為をしようとする時の3秒前のときに合図しなければならない。
- 問10. 道路外施設に出入りするために歩道を横切るときは、歩行者がいない場合でも歩道の手前で一時停止する。
- 問11. 対面する信号が青色の場合は、前方の交通状況にかかわらず、交差点に進入することができる。
- 問12. 通行する車両通行帯が進路変更の禁止を表示する道路標示で区画されていても、緊急自動車に進路を譲るためであれば進路変更することができる。
- 問13. 交差点を左折するとき、横断歩行者や自転車がいないことがあきらかな場合には徐行しなくてもよい。

- 問 14. 警報機が鳴り始めても遮断機が閉じる前であれば踏切に進入してもよい。
- 問 15. 走行中に携帯電話やスマートフォンなどで会話をすることは禁止されているが、メールの送受信のために画面を注視することは禁止されていない。
- 問 16. 呼気1リットルにつき0.15ミリグラム以上の酒気帯び運転は処罰の対象となるが、それに達しない場合であっても、酒気を帯びて運転すれば違反となる。
- 問 17. 横断歩道の手前の直前で停止している車両の側方を通過するときは、徐行して安全を確認しながら進行しなければならない。
- 問 18. 交差点の側端から5メートル以内は駐停車禁止である。
- 問 19. 徐行の道路標識等がない場合でも、上り坂の頂上附近は徐行しなければならない。
- 問 20. 運転者には、走行中は、前の車が急に停止したときでも、追突を回避できる車間距離を保持することが義務づけられている。
- 問 21. 交差点内で緊急自動車が近づいてきたときは、交差点を避け、かつ、道路の左側に寄って一時停止しなければならない。
- 問 22. 時間が指定されている路線バスの優先通行帯は、指定された時間内に限り、路線バス以外の車両（軽車両を除く）は一切通行できない。
- 問 23. 目が見えない人が白色のつえを携えて通行しているときは、車両は一時停止か徐行をして安全に通行できるようにしなければならない。

問 24. この標識のある場所では、車体の長さが3.3メートルを超える車は通行できないことを示している。



問 25. 路側帯が広い場合でも、白の実線と破線の表示のある路側帯では、その中に入って駐車することはできない。

問 26. 道路交通法でいう「放置車両」とは、違法駐車と認められる場合における車両であって、その運転者がこれを離れて直ちに運転することができない状態にあるものをいう。

問 27. 交差点を右折するとき、道路標識等により通行すべき部分が指定されていない場合は、交差点の中心の直近の外側を徐行して通行する。

問 28. 車両は、対面する信号が黄色の場合は、停止位置に近づいていて安全に停止できない場合を除いて、停止位置をこえて進行してはならない。

問 29. 自動車は歩道又は路側帯と車道との区別がある道路では、路側帯に歩行者がいなくても、路側帯にはみ出して通行することができない。

問 30. 道路交通法でいう「重被^{けん}牽引^{けん}車」とは、牽引されるための構造及び装置を有し、かつ、車両総重量が750キログラムを超えるものをいう。

問 31. 車を離れるときは、エンジンを切り、完全にブレーキをかけるなど車が動き出さないような措置を講じる。

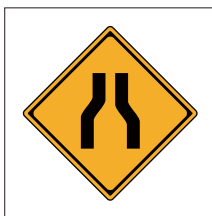
問 32. この標識のある場所は、普通乗用車と自動二輪車は通行できないが、それ以外の車両は通行できる。



問 33. 仮免許練習標識を付けた車に対しては、幅寄せや割り込みを禁止する保護義務はない。

問 34. 貨物の積卸しのための停止で 10 分以内のものは駐車にはならない。

問 35. この標識は、車線が減少することを示している。



問 36. 標識等で速度が指定されていない自動車専用道路での貨物自動車の最高速度は、最大積載量や車両総重量にかかわらず、すべて時速 60 キロである。

問 37. 道路の左側部分に設けられた安全地帯の側方を通過する場合は、安全地帯に歩行者がいなくても徐行しなければならない。

問 38. 道路外に出るために右折しようとする車が、道路の中央（一方通行路の場合は右側端）に寄ろうとして合図を出したときは、後方の車は急ブレーキや急ハンドルで避けなければならないような場合を除き、前車の進路変更を妨げてはならない。

問 39. 高速自動車国道等において、緊急自動車が本線車道に入ろうとしているときや出ようとしているときは、その通行を妨げてはならない。

問 40. 道路交通法でいう「車両」とは、自動車、原動機付自転車及びトロリーバスをいい、自転車などの軽車両は含まれない。

Ⅱ 構造機能 (20 問)

【4 肢択一式問題】

問 41. 前照灯に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 走行用前照灯は、そのすべてを照射したときには、夜間にその前方 80 メートルの距離にある交通上の障害物を確認できる性能を有するものであること。
- イ 走行用前照灯の灯光の色は、黄色であること。
- ウ すれ違い用前照灯は、そのすべてを同時に照射したときに、夜間にその前方 50 メートルの距離にある交通上の障害物を確認できる性能を有すること。
- エ すれ違い用前照灯の直射光又は反射光は、当該自動車及び他の自動車の運転操作を妨げるものでないこと。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 42. 道路運送車両の保安基準に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 自動車の高さは、告示で定める方法により測定した場合において、3.8 メートルを超えてはならない。
- イ 自動車の長さ（セミトレーラにあっては、連結装置中心から当該セミトレーラの後端までの水平距離）は、10 メートル（セミトレーラのうち告示で定めるものは 13 メートル）を超えてはならない。
- ウ セミトレーラ以外の自動車で、最遠軸距が 5.5 メートル未満の自動車の車両総重量は、25 トンを超えてはならない。
- エ 隣り合う車軸にかかる荷重の和は、その軸距が 1.8 メートル以上である場合にあっては 20 トンを超えてはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 43. 事業用貨物自動車の点検整備に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 定期点検整備は、毎年、3月と12月の2回実施すればよい。
2. 日常点検は、一日一回、その運行の開始前に実施しなければならない。
3. 点検整備記録簿は当該貨物自動車に備え置き、点検又は整備をしたときは遅滞なく必要事項を記載しなければならない。
4. 日常点検は、国土交通省令で定める技術上の基準に基づいて実施しなければならないが、この基準とは「自動車点検基準」のことである。

問 44. 停止表示器材に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 停止表示器材は、夜間200メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものであること。
2. 停止表示器材による反射光の色は、赤色であり、かつ、当該停止表示器材による蛍光の色は、赤色又は橙色であること。
3. 停止表示器材は、容易に組み立てられる構造であること。
4. 停止表示器材は、昼間100メートルの距離からその蛍光を確認できるものであること。

【○×正誤式問題】

次の問 45 から問 60 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問 45. 貨物の運送の用に供する普通自動車で、車両総重量が 8 トン以上又は最大積載量が 5 トン以上（最高速度が 90 キロメートル毎時以下の自動車等を除く）のものには、速度抑制装置を備えなければならない。
- 問 46. 後退灯の灯光の色は赤色でなければならない。
- 問 47. 自動車（被牽引自動車^{けん}を除く）の前面ガラス及び側面ガラスは、交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分の可視光線の透過率が 60% 以上のものでなければならない。
- 問 48. 冷却装置のファン・ベルトの緩み及び損傷と水漏れの点検は、3 か月ごとに行わなければならない。
- 問 49. 貨物の運送の用に供する自動車（告示で定める自動車等を除く）で、車両総重量 3.5 トンを超えるものの前面には、告示で定める基準に適合する前部潜り込み防止装置を備えなければならない。
- 問 50. 自動車は、自動車検査証を備え付けるか、又は国土交通省令で定めるところにより検査標章を表示しなければ運行の用に供してはならない。
- 問 51. 自動車の軸重は、10 トン（牽引自動車^{けん}のうち告示で定めるもの^{けん}にあつては、11.5 トン）を超えてはならない。
- 問 52. 自動車は、運行中ばい煙、悪臭のあるガス又は有害なガスを多量に発散しないものでなければならない。

- 問 53.** 車両総重量 8 トン未満の貨物の運送の用に供する自動車が、初めて自動車検査証の交付を受けた場合の有効期間は 2 年である。
- 問 54.** 車両総重量が 8 トン以上の自動車の車体の後面には、最大積載量のほか、車両総重量も表示しなければならない。
- 問 55.** 貨物の運送の用に供する普通自動車であって車両総重量が 7 トン以上のものの後面には、後部反射器に代えて大型後部反射器を備えなければならない。
- 問 56.** 車線逸脱警報装置とは、自動車が走行中に車線から逸脱しようとしているか、又は逸脱していることを運転者に警報することにより、自動車の車線からの逸脱を防止する装置をいう。
- 問 57.** エンジンオイル量の点検は、平坦な場所で、エンジン始動直後に行う。
- 問 58.** 日常点検を行うときは、駐車ブレーキを確実に効かせ、ギアをニュートラルにする。
- 問 59.** 道路運送車両法で定める「車両総重量」とは、車両重量、最大積載量及び 60 キログラムに乗車定員を乗じて得た重量の総和をいう。
- 問 60.** 警音器は、警報音発生装置の音が自動的に断続するものであって、かつ、音の大きさ及び音色が一定なものでなければならない。

Ⅲ 運転常識 (20 問)

【4 肢択一式問題】

問 61. 夜間の運転に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 夜間は速度感が鈍り、速度超過になりがちである。
2. 走行中に、自車のライトと対向車のライトで、道路の中央付近の歩行者が見えなくなることがある。
3. 対向車のライトがまぶしいときは、視線をやや右前方に移して目がくらまないようにする。
4. 視線はできるだけ先のほうへ向け、少しでも早く前方の障害物を発見する。

問 62. 休息期間は継続した8時間以上が原則だが、業務の都合上、休息期間を分割して与える場合に関し、次のうち改善基準告示に違反しているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1.

拘束時間 7時間	休息期間 3時間	拘束時間 7時間	休息期間 7時間
-------------	-------------	-------------	-------------
2.

拘束時間 7時間	休息期間 4時間	拘束時間 7時間	休息期間 6時間
-------------	-------------	-------------	-------------
3.

拘束時間 4時間	休息期間 5時間	拘束時間 10時間	休息期間 5時間
-------------	-------------	--------------	-------------
4.

拘束時間 6時間	休息期間 6時間	拘束時間 8時間	休息期間 4時間
-------------	-------------	-------------	-------------

問 63. 次のア～エの記述のうち、事業用自動車の運転者が遵守すべき事項として、法令に定めのないものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上の普通自動車である事業用自動車に乗務した場合で、荷主の都合により集荷地点等で待機したときは、乗務等の記録に荷待ち時間等を記録すること。
- イ 酒気を帯びた状態にあるときは、その旨を貨物自動車運送事業者に申し出ること。
- ウ 乗務を終了して他の運転者と交替するときは、交替する運転者に対し、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況について通告すること。
- エ 踏切を通過するときは、制動装置を操作しないこと。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 64. 車の停止距離等に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 停止距離とは、空走距離と制動距離を合わせた距離をいう。
- イ 制動距離とは、運転者が危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでの間に車が走る距離をいう。
- ウ 路面が濡れていると、制動距離が短くなる。
- エ 運転者が疲れていると、空走距離が長くなる。

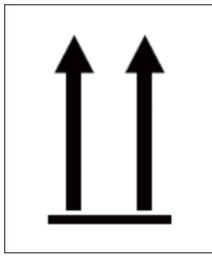
- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

【○×正誤式問題】

次の問 65 から問 80 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問 65. 踏切では、対向車との接触を避けるために、できるだけ左側に寄って通行する。
- 問 66. 普通自動車に比べると、大型自動車、中型自動車及び準中型自動車は運転席から車や歩行者が見えなくなる範囲が広い。
- 問 67. 1 日（始業時刻から起算して 24 時間）の拘束時間は 13 時間以内を基本とし、延長する場合でも 16 時間が限度である。
- 問 68. 集中豪雨のときは、ガード下などのアンダーパスやすりばち状の道路は冠水のおそれが高いので避けたほうがよい。
- 問 69. 高速道路のトンネルや切り通しの出口などでは、横風にハンドルを取られることがあるので注意する。
- 問 70. 休憩又は睡眠をした場合は、その地点及び日時を乗務記録に記載しなければならないが、15 分未満の休憩についてはその記録を省略してもよい。
- 問 71. 1 日の運転時間は 2 日（始業時刻から起算して 48 時間）平均で 10 時間が限度である。
- 問 72. 1 日の拘束時間が、15 時間を超える回数は 1 週間につき 3 回が限度である。
- 問 73. 車が衝突したときの衝撃力は、車の重量が重いほど大きくなる。

問 74. 下に示した貨物の荷扱い指示マークは、包装貨物の正しい上向き位置を示している。



問 75. 荷物の位置が極端に荷台の後方又は片側に偏る積載は、「偏荷重を生じる積載方法」の一例である。

問 76. 舗装道路では、雨の降り始めより雨の降り止む頃のほうがスリップしやすい。

問 77. 動いている物や動きながら物を見るとき視力を動体視力というが、一般に動体視力は静止視力よりも低下する。

問 78. 車両総重量が7トン以上又は最大積載量が4トン以上の事業用自動車には、運行記録計による記録が義務づけられている。

問 79. 車間距離が短くなると、無駄な加速・減速の機会が多くなり、燃費が悪化する。

問 80. 事業者は、常時使用する労働者に対して1年以内ごとに1回（深夜業を含む業務に従事している労働者には6か月以内ごとに1回）健康診断を行わなければならない、労働者は事業者が行なう健康診断を受けなければならない。

第49回 全国トラックドライバー・コンテスト 学科競技解答

(公社)全日本トラック協会

I. 法規

問	選択肢			
	1	2	3	4
1			3	
2			3	
3				4
4	1			

問	○	×
5		×
6	○	
7	○	
8		×
9		×
10	○	
11		×
12	○	
13		×
14		×
15		×
16	○	
17		×
18	○	
19	○	
20	○	

問	○	×
21	○	
22		×
23	○	
24		×
25	○	
26	○	
27		×
28	○	
29	○	
30	○	
31	○	
32		×
33		×
34		×
35		×
36	○	

問	○	×
37		×
38	○	
39	○	
40		×

II. 構造機能

問	選択肢			
	1	2	3	4
41			3	
42		2		
43	1			
44				4

問	○	×
45	○	
46		×
47		×
48		×
49	○	
50		×
51	○	
52	○	
53	○	
54		×
55		×
56	○	
57		×
58	○	
59		×
60		×

III. 運転常識

問	選択肢			
	1	2	3	4
61			3	
62	1			
63	1			
64		2		

問	○	×
65		×
66	○	
67	○	
68	○	
69	○	
70		×
71		×
72		×
73	○	
74	○	
75	○	
76		×
77	○	
78	○	
79	○	
80	○	